| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年期 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|
| 文章表現技術1B | 一生役立つ日本語力を身につける | 服部　麻友美 | １年次後期 | 2 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目区分 | 基礎 | キーワード | 日本語、敬語、文法、言葉遣い、ビジネスでの文章表現、エントリーシート |

| | |
|---|---|
| ディプロマポリシーとの対応 | 1.　時代や社会の要請に対応できる能力 |
| カリキュラムポリシーとの対応 | 1.　一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける |
| 事前に受講するとよい科目 | 文章表現技術Ａ |
| オフィスアワー | 授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 |
| 講義の目的 | ①　社会人として必要な日本語力（敬語・知識・読解力）を身につける。　②　社会人として、どのような地位の方とも気後れせず対話できる日本語力を身につける。　③　日常生活で、言葉に関心を持ち、日本語力を向上する姿勢を持つ。　④　就職活動で必要な文章力を身につける。 |
| 到達目標 | ①　日本語力向上により、社会人として必要な敬語・知識・読解力・対話力を身につけることを目標とする。②　【日本語検定】３級以上の合格を目標とする。 |
| 講義内容 | ⑴敬語 ⑵文法 ⑶語彙　⑷言葉の意味　⑸表記　⑹漢字　以上６つの領域を中心に進める。解説と問題演習を通じて、理解を深める。エントリーシート作成に関しては、事前の準備をして、授業内で提出する。レベル別クラス（1/2）は、前期成績にて指定する。本講義履修は、前期「文章表現技術ＩＡ」を履修し、単位を取得（認定）済みであることを前提とする。未履修者は必ず第１講に出席して、指導およびテストを受けること。 |

講義スケジュール

| | タイトル | 内容 |
|---|---|---|
| 第１講 | オリエンテーション | 講義内容、進め方、評価方法等の説明 |
| 第２講 | 敬語① | 意義・種類・形式・状況に合わせた敬語の使い方 |
| 第３講 | 敬語② | 誤った敬語の使い方 |
| 第４講 | 文法 | 可能・使役表現・文のねじれ、陳述（呼応）の副詞 |
| 第５講 | 語彙 | 類義語・対義語 |
| 第６講 | 言葉の意味 | 慣用句 |
| 第７講 | 漢字・表記 | 日本語の中の漢字・四字熟語 |
| 第８講 | 総合問題 | 総合問題演習 |
| 第９講 | 就職活動対策① | エントリーシート項目別添削（私の特徴） |
| 第 10 講 | 就職活動対策② | エントリーシート項目別添削（得意な分野・科目） |
| 第 11 講 | 就職活動対策③ | エントリーシート項目別添削（趣味・スポーツ・特技など） |
| 第 12 講 | 就職活動対策④ | エントリーシート項目別添削（大学時代に力を入れたこと） |
| 第 13 講 | 就職活動対策⑤ | エントリーシート項目別添削（研究課題） |
| 第 14 講 | 就職活動対策⑥ | エントリーシート項目別添削（志望動機） |
| 第 15 講 | 期末試験対策 | 本試験についての説明 |

| | |
|---|---|
| 指導方法 | 指定テキスト、配布プリントに沿って、解説及び問題演習を行う。また、課題を課し、知見を深める。 |
| 事前学習 | 授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。 |
| 事後学習 | 授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。 |
| 成績評価方法 | 本試験（筆記試験）70%　平常点（発表課題）　10%　平常点（小テスト）10%　平常点（発言）10% |
| テキスト | 日本語検定委員会『ステップアップ日本語講座　上級』東京書籍 2020 年 |
| 参考書籍 | ①須永哲也・安達雅夫・川本信幹・速水博司『日本語検定公式テキスト・例題集　「日本語」上級増補改訂版』東京書籍 2020 年　　②円満字二郎『語彙力をつける入試漢字 2600』筑摩書房 2019 年 |
| 実務家教員による授業 | 教員経歴 |
| 特記事項 | 11 月実施の日本語検定で３級以上認定の場合、成績に加点する |